

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 兵庫県神戸市中央区下山手通5-10-1
管理機関名 兵庫県教育委員会
代表者名 教育長 西上 三鶴

令和3年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和3年4月1日(契約締結日) ~ 令和4年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 兵庫県立生野高等学校
学校長名 福田 孝善
類型 地域魅力化型

3 研究開発名

未来型解決能力を持つ地域の担い手を育成するIKUNOモデルの開発

4 研究開発概要

生野の歴史や文化を学ぶことで地域課題を理解し、地域の観光資源を活用した地域活性化と、AIやIoTを活用した高齢者に優しいまちづくり等、地域と協働した探究学習を通じて、生野が日本の近代化を牽引したという誇り「IKUNOプライド」を醸成し、地域の担い手の育成を図る「IKUNOモデル」の研究開発を行う。

5 学校設定教科・科目の開設、教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している ・ 開設していない
- ・教育課程の特例の活用 活用している ・ 活用していない

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
吉田 和志	兵庫大学・非常勤講師	委員長
杉岡 秀紀	福知山公立大学・准教授	副委員長
千歳 誠一郎	朝来市・教育長	委員
森垣 庄治	但馬県民局副局長	委員
西田 利也	兵庫県教育委員会事務局・高校教育課長	委員

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者
兵庫県教育委員会	高校教育課長 西田 利也
兵庫県立生野高等学校	校長 福田 孝善
朝来市	市長 藤岡 勇
福知山公立大学	学長 井口 和起
関西国際大学（神戸山手キャンパス）	学長 濱名 篤
(株)ZMP	代表取締役社長 谷口 恒
但陽信用金庫	理事長 桑田 純一郎
全但バス株式会社	代表取締役社長 桐山 徹郎
株式会社シルバー生野	取締役社長 妹尾 高明
いくの地域自治協議会	会長 日下部 誠
奥銀谷地域自治協議会	会長 柴田 一明
NPO 法人あさご創生プロジェクト	代表 古屋敷 和也
NPO 法人いくのライブミュージアム	事務局長 松本 忍
NPO 法人日本ハザード研究所	理事長 岡田 純
朝来市商工会	会長 西垣 隆
生野町温泉開発株式会社	代表取締役社長 奥藤 博司
生野町観光協会	会長 桐山 徹郎
社会福祉法人いくの喜楽苑	施設長 松本 久司
いくのこども園（R3 追加）	園長 平松 厚美
朝来市立生野小学校（R3 追加）	校長 岸本 達也
朝来市立生野中学校（R3 追加）	校長 小西 浩司

8 カリキュラム開発専門家，地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	江上 直樹	大阪大谷大学・専任講師	謝金
カリキュラム開発専門家	岡野 未希	フリーランスデザイナー	謝金
カリキュラム開発専門家	中西 雅幸	NPO 法人・代表	謝金
カリキュラム開発専門家	藤本 佳朗	但陽信用金庫・室長	謝金
地域協働学習支援員	篠原 諒太	NPO 法人・事務局長	朝来市より派遣

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

活動日程	活動内容
6月25日	生野高等学校各教室とオンラインで実施された1年生個人による中間発表会に参加し，生徒の研究のプレゼンテーションを見学・助言を行った。（ゆめいく検定，地域活性化等） その後，第1回協議会で各団体と生徒の協働活動の今後の進め方を協議した。
7月16日	2年生探究活動中間発表会に参加し，生徒の研究のプレゼンテーションを見学・助言を行った。 その後，第1回運営指導委員会で生徒の探究活動の内容や，運営につ

	いて指導・助言を行った。
12月17日	第6回ゆめいくプロジェクト発表会に参加し、その後第2回協議会を開催した。今年度で文科省の事業指定が終わるため、来年度以降の事業展開のあり方について協議した。
2月11日	第3回但馬地区高校生フォーラムに出席した。 第2回運営指導委員会を現地とオンラインの併用で実施し、第3回但馬地区高校生フォーラムの実施内容について指導・助言を行った。 今年度の取組について協議した上で、3年間の総括を行った。

(2) 実績の説明

- ・コンソーシアム及び運営指導委員会に担当指導主事を派遣し、大学・企業・関係機関等の専門家と意見交換を図りながら、事業の成果と評価をもとに指導・助言を行った。
- ・オンラインでの発表会実施における指導・助言等を行った。
- ・国費に加え、県事業「県立高校特色づくり推進事業（インスパイア・ハイスクール）」にて追加予算を行い、より充実した取組を支援した。
- ・事業終了後、本事業の取組を持続可能なものにするために一定の事業経費を計上し、支援する予定である。

10 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
観光・グローバル学習 地域学習 探究学習(1年生)	3回	2回	1回	1回		3回	1回	1回			1回	1回
海外地域研究 探究学習(1年生)	1回					2回	1回	1回	1回	1回		
観光・グローバル探究Ⅰ 地域探究Ⅰ 総合科学技術探究Ⅰ 探究学習(2年生)	2回	2回	1回			1回		2回		1回	2回	1回
郷土理解 探究学習(2年生)	2回	3回	4回	1回		3回	3回	5回	2回	3回	2回	1回
異文化理解 探究学習(2年生)	4回	6回	6回			6回	5回	9回	2回	5回	2回	2回
観光・グローバル探究Ⅱ 地域探究Ⅱ 総合科学技術探究Ⅱ 探究学習(3年生)	3回	3回	3回			2回	3回	5回		1回		
観光研究 探究学習(3年生)	4回	5回	9回	1回		1回	7回	6回	4回	2回		
観光英会話 探究学習(3年生)	5回	5回	8回	2回		6回	7回	8回	2回			
ホスピタリティ 探究学習(3年生)	3回	3回	3回	1回		3回	4回	4回	1回			
朝来市など地域との協働	1回		1回			6回	5回	4回	3回	4回		
各種コンテスト・サミット等への参加					1回			1回		2回	1回	1回
探究成果発表会 (中間発表を含む)	1回		2回	1回			1回	1回	1回		1回	
IKUNO モデル推進委員会	1回		2回			1回		2回	1回	1回		1回
ゆめいくプロジェクト 授業担当者会	2回	3回	1回	2回	1回	4回	2回	2回	2回	3回	1回	1回

コンソーシアム協議会			1回						1回			
運営指導委員会				1回							1回	
職員全体研修	1回									1回		

(2) 実績の説明

① 研究開発の内容や地域課題研究の内容について

a 地域人材の活用により，地域の歴史・文化・風習等を知り，鉾山町としての意識（「IKUNOプライド」）を持つ生徒の育成。

- ・ 1学年の学校設定科目「観光・グローバル学習」「地域学習」において，48名生徒全員が地域へフィールドワークに出かけ，コンソーシアム団体の方や地域の方へのインタビューなどをおして地域の歴史・文化・風習等を学んだ。

- ・ 2学年の生徒の地域との協働活動において，甲社宅や生野地域の寺院とのコラボレーションにより，甲社宅を含めた生野地域の観光プランの作成や，生野地域の寺院の紹介をするウェブページの作成などに取り組み中で，鉾山町生野を知ることにより，IKUNOプライドの醸成に繋がった。

b 地域の観光資源の活用の方策を地域住民と協働して考え，観光資源を活かした魅力あるまちづくりを企画・立案し，朝来市に提案。

- ・ 6月25日 1年生探究学習中間発表会
ゆめいく検定についてコンソーシアム団体に発表。

- ・ 7月16日 2年生探究学習中間発表会
運営指導委員に発表。

- ・ 10月28日 1年生探究学習成果発表会「ゆめいくトライアル」

- ・ 11月4日 2年生探究学習成果発表会「ゆめいくトライアル」

- ・ 12月18日 第6回ゆめいくプロジェクト発表会

1・2年生全員が分科会形式でプレゼンテーション発表を行った。事前に選ばれた代表者は全体発表の場でプレゼンテーション発表として，高校生が考える地域活性化の提案を行った。

また，3年生は「ゆめコレ チャンネル」として，地域の魅力をYouTubeで配信したり，「ゆめコレ 選挙」として，自分たちが感じている地元の課題を解決するためのマニフェストを掲げた模擬政党による，選挙を行った。

- ・ 2月11日 第3回但馬地区高校生フォーラム（オンライン併用）
運営指導委員に発表。

代表生徒が体育館にてプレゼンテーション発表を行った。県立村岡高校の生徒もオンラインにて参加し発表した。また探究活動について，パネルディスカッションで討議した。

c 今年度開催予定であった「国際ハンザキシンポジウム&第17回日本オオサンショウウオの会・朝来大会」は来年度6月に実施されることとなった。その大会において本校生徒も発表することになり，それに向けて特別天然記念物「オオサンショウウオ」の調査・研究を「日本ハンザキ研究所」と1学年のオオサンショウウオを研究テーマとするグループが中心として行い，その成果を発表する予定である。

② 地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け

以下のa～iの探究活動や授業の方法，カリキュラム，地域との協働体制，コンソーシアムの構築体制等を，「IKUNOモデル」として体系化し，普及・促進を図る。

【1学年】

a 「観光・グローバル学習」「地域学習」

<ねらい>

『日本遺産「播但貫く、銀の馬車道鉱石の道」を学ぶ』（文化庁）をとおして、地域の過去と現在を知ることによりIKUNOプライドの基礎を醸成する。歴史や文化の理解を軸に置いたIKUNO検定を作成する過程で、フィールドワーク、情報収集、インタビュー、発表資料作成、発表方法といった基本的な研究手法を獲得し、協働的に探究する姿勢を身につける。また、「お金についての知識」、「テクノロジー×地域課題」をテーマとした外部講師の講義を受けることにより、「観光・グローバル探究ⅠⅡ」、「地域探究ⅠⅡ」、「総合科学技術探究ⅠⅡ」へ向けての基礎作りを行う。

<目標>

- 1 銀の馬車道沿いにある地域資源を再発見し、発信する。
- 2 「IKUNOプライド」を醸成し、地域が抱えている課題に気づく。
- 3 地域活性化に必要な主体的に地域課題に向かい解決する力、お金の知識、テクノロジーの知識を身につける。

b 「海外地域研究」

<ねらい>

学校が置かれている朝来市と海外でのどのような国とつながってきたかについて歴史を通して学ぶことを主眼とする授業である。今年度については、生徒個人の興味・関心を研究のきっかけとして、外国の文化について知り、それを他者に向けて発信できることをねらいとした。

<目標>

- 1 個人やグループとして興味のある外国とその文化等の特徴について知る
- 2 外国と日本の比較研究を行うことができる
- 3 調べたことを発信することができる

【2学年】

c 「観光・グローバル探究Ⅰ，地域探究Ⅰ，総合科学技術探究Ⅰ」

<ねらい>

1学年で学んだ地域が抱える課題をもとに、多岐にわたるテーマから自ら取り組んでみたいテーマを選び、調査・研究をさらに深化させる。また、積極的に地域に足を運び、フィールドワークを通して地域との協働作業を行い、高校生ができる地域課題の解決に向けた提案を行う。その後、地域の方々とその提案を実践し、ゆめいくプロジェクト発表会や朝来市役所等において、その成果について校内や地域と共有する。また、1学年より継続して、「お金についての知識」をテーマとした外部講師の講義を受けることにより、自分たちが取り組んでいる課題に対する解決策の提案と実践に役立てていく。その結果、最終目的である「観光・グローバル探究Ⅱ」、「地域探究Ⅱ」「総合科学技術探究Ⅱ」でのレポート作成へつなげていく。

<目標>

- 1 身近な課題に気づき、解決策を考えていくことを通して、社会人に必要な基礎技能を培う
- 2 「IKUNOプライド」を持ち、身近な課題に対する解決策を提案する
- 3 地域活性化に必要な主体的に地域課題に地域と協働する力とお金の知識を身につける

d 「郷土理解」

<ねらい>

自分が生まれ育ち、住んでいる場所をふるさととして大切に思う気持ち「ふるさと意識」を育成する。まず自身のふるさとに対する関心を高め、次に将来住んでみたい街を中心に他地域を調べる。他地域と比較することで、ふるさとの良さや課題を再発見し、ふるさと意識を育む。

<目標>

- 1 自分の町（地元や兵庫県）を紹介できる
- 2 自分の将来を考える
- 3 さまざまな生き方や職業を知り、視野を広げる

e 「異文化理解」

<ねらい>

異文化に関心を持ち、積極的に他国の文化について調べることで、異文化に対する理解を深める。また、今後ますます進展するグローバル社会の中で、さまざまな国籍や文化的背景を持つ方々とコミュニケーションをとりながら共生できるように、互いの「違い」を理解し認めようとする態度や意欲の育成を図る。

<目標>

- 1 日本と海外の文化の違いを知り視野を広げる
- 2 海外の文化を通して日本の文化を知る
- 3 日本の文化を紹介できる

【3学年】

f 「観光・グローバル探究Ⅱ，地域探究Ⅱ，総合科学技術探究Ⅱ」

<ねらい>

これまで学んできた探究の手法を用いて再度、自分について探究することで、自分の進路実現に向けて目標を立て、それに向かうアプローチ方法を考えて進路実現につなげていく。そのプロセスについて、3年間で振り返りながらまとめることで「夢行くレポート」として後輩に残す。

これまで学んできた地域の課題と実践してきた課題解決策をもとにこれからの地域の未来について何が必要かを考えて提案するか地域の魅力を発見し、発信していく。

<目標>

- 1 自分の本当に行きたい進路を理由とともにみつける
- 2 「IKUNOプライド」を持つ
- 3 いままでの自分の学んできたことを後輩に残す
- 4 地域課題を通して、政治的教養を身につける

g 「観光研究」

<ねらい>

観光に興味・関心が高い生徒を対象に、観光プランの作成・研究を通して、観光に対して主体的に考え議論できる能力やプランニング能力を高める。また、これらの活動を通してふるさとや日本の魅力を再発見し、発信できるようになる。

<目標>

- 1 プレゼンテーションを通してコミュニケーション能力の向上を図る

- 2 日本の文化や観光地を紹介できるようになる
- 3 観光について学ぶ

h 「観光英会話」

<ねらい>

日常会話や旅行計画の作成と英語での発表を通して、生徒が「自分自身」、「生まれ育ったふるさと」、そして「生野」について英語で発信できるようになる。また、英語に対する苦手意識を和らげることや、失敗に立ち向かうチャレンジ精神を育成することもねらいである。

<目標>

- 1 伝えたいことを英語で表現できる
- 2 日本文化や観光地について英語で紹介できる
- 3 観光について学ぶ

i 「ホスピタリティ」

<ねらい>

竹田城跡・生野銀山をフィールドとした観光をテーマにグローバルな視点で地域の魅力を世界に発信できる生徒の育成を図る。

<目標>

- 1 海外の事例を検証することができる
- 2 県下各地域の歴史や文化を学び本文化や観光地について学ぶ
- 3 科学的な側面から観光など地域活性化のために活用できる

③ 類型ごとの趣旨に応じた取組について

朝来市総合政策課との協議により、生野の魅力を生徒が知ると同時に、地域住民に広報するために、「ゆめいく検定」を作成し、成果発表会で披露した。

外部のコンテストへの参加も積極的に行い、『探究甲子園』（関西学院大学主催）においては、全国 40 校の中に出選され、3名の生徒が発表した。また、『全国高校生マイプロジェクトアワード』（文部科学省後援）においても3チーム7名が応募し、いずれも西日本大会に出場し発表した。さらに、『HYOGO×WKCフォーラム高校生SDGs探究発表会 2021』（兵庫県教育委員会主催）においては、4校の代表校に出選されて1チーム4名の生徒が発表し優秀賞を受賞した。また、同発表会の動画発表部門には5チーム9名が応募した。

2月11日には、『第3回但馬地区高校生フォーラム』を学校とオンラインの併用で開催した。本来なら但馬地区の高校生の探究活動を広く紹介するとともに、高校生目線での但馬の魅力を発信する予定であったが、今年度は本校独自で行い、同じ地域魅力化型の指定校である村岡高校がオンラインで参加した。

④ 成果の普及方法・実績について

令和4年1月20日、文科省の「令和3年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 全国サミット」において、オンラインでの発表により、本事業の成果を発信した。今年度中に、本事業で行ってきた探究活動の授業プリントを様式集としてまとめ、本校ホームページに掲載する予定である。

毎月、学校通信を発行し、活動内容を紹介している。地元中学校3年生全員、生野町内各区に配布し、広報している。また、本校ホームページでも行事ごとに活動内容を紹介している。

(3) 研究開発の実施体制について

① 地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

授業担当者とカリキュラム開発等専門家で構成される担当者会議「ゆめいくプロジェクト担当者会」においては、3年間のカリキュラム開発の最終ゴールの設定を行い、さらにこれまでのカリキュラム開発で構築してきた内容の総まとめとしてワークシート集の作成を行い、指定後も協働活動が持続可能なものとして実施できる体制を構築した。

また、コンソーシアム I K U N O 協議会は、指定終了後も継続して実施することを確認した。

② 学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

I K U N O モデル推進委員会で具体的な指針を決定し、それに基づいて毎週の担当者会議「ゆめいくプロジェクト担当者会」で詳細を決定し、授業担当者が授業を行う。授業担当者の授業を行う上での問題点を担当者会議で共有し、カリキュラム開発等専門家はそれを基に年間計画や指導案等の助言を行う。また、本事業の成果発表会を全職員で運営した。

学校全体共有方法として、推進部長が中心となり、4月と1月に全職員による研修を行い、指定事業に対する学校全体の共通理解を図った。

I K U N O モデル推進委員会を中心に実施計画を作成し、校務運営委員会、職員会議で全職員に共通理解を図り、指定事業を推進した。

③ 学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

カリキュラム開発等専門家が担当者会議で授業担当者からの意見を聞くことや実際に授業に同行し、成果の検証・評価を通じ、計画・方法の改善策を助言した。それを I K U N O モデル推進委員会において、学校長を中心に確認し、不十分に思われる部分については、委員会としてどのように改善するかを協議し、改善する仕組みで事業を進めた。

④ カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

第1回コンソーシアム I K U N O 協議会の前に開催した1年生の中間発表会に参加していただき、その内容に関して、課題点を含め、多くの指導・助言をいただいた。生徒が地域のことを知るきっかけづくりとなり、コンソーシアムと学校との距離が縮まった。その結果、フィールドワークへの協力がしやすくなり、お互い何ができるか意見交換もスムーズであった。地域の現状を知るための講義や教材提供をしていただいた。その中で、生徒たちがより深く知りたいと感じたことに対して再度、指導・助言を行っていただいた。

第2回コンソーシアム I K U N O 協議会は、第6回ゆめいくプロジェクト発表会と同日に開催した。文科省の指定事業は今年度で終了するが、コンソーシアムの活動は来年度以降も継続する方向となった。

11 目標の進捗状況、成果、評価

運営指導委員会やコンソーシアム I K U N O 協議会等の外部組織と連携しながら、内部組織である I K U N O モデル推進委員会及びゆめいくプロジェクト担当者会を中心に、絶えず検証を行い、P D C A サイクルに基づき改善を進めた。具体的には以下のとおりである。

(1) 本構想において実現する成果目標（アウトカム）

① 卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着

- a 地域をよくするために、地域における問題に関わりたいと思う生徒の割合（目標設定の考え方：生徒の地域に対する主体性が養われたかどうかを測る）

- 3年目目標値－80% 3年目実績－53.3% (2021年度高校魅力化評価システムより)
- b 勉強したことを実際応用してみたいと思う生徒の割合 (目標設定の考え方: 学校での学びが生徒の実生活や地域と密接な関係にあるかを測る)
- 3年目目標値－80% 3年目実績－54.4% (2021年度高校魅力化評価システムより)
- ② 高校卒業後の地元への定着状況
- a 進学のために一度外に出るが、将来的には戻って今のふるさとに住み続けたいと思う生徒の割合 (目標設定の考え方: 生徒の地元への定着力を測る)
- 3年目目標値－60% 3年目実績－48.5%
- b 高校卒業後、地元で貢献したいと思う生徒の割合 (目標設定の考え方: 生徒のふるさとへの愛着を測る)
- 3年目目標値－80% 3年目実績－60.4% (2021年度高校魅力化評価システムより)
- c 高校卒業後、いずれは地元で働きたいと希望する生徒の割合 (目標設定の考え方: いくつくらいに帰郷したいかも聞き、生徒の地元就職への思いについて分析する)
- 3年目目標値－70% 3年目実績－41.4% (2021年度高校魅力化評価システムより)
- (2) 地域人材を育成する高校としての活動指標 (アウトプット)
- ① 地域課題研究又は発展的な実践の実施状況
- a 探究活動に充実感をもつ生徒の割合 (目標設定の考え方: 探究活動への生徒の取組を測る)
- 3年目目標値－90% 3年目実績－74.8%
- b 地域の抱える課題への解決策や観光に関しての自治体への提案状況 (目標設定の考え方: 探究活動の成果を見る)
- 3年目目標値－1回 3年目実績－4回
- 6月25日 1年生探究学習中間発表会 7月16日 2年生探究授業中間審査会
12月17日 第6回ゆめいくプロジェクト発表会
2月11日 第3回但馬地区高校生フォーラム
- ② 課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして
- 「但馬地区高校生フォーラム」の開催 (目標設定の考え方: 成果発表の実施について測る)
- 3年目目標値－1回 3年目実績－2月11日実施
- ③ その他本構想における取組の具体的指標
- 地域活性化に関する公益性の高い国内の大会における参加者数 (目標設定の考え方: 生徒の探究活動の客観的な評価を測る)
- 3年目目標値－15人 3年目実績－23人
- 1月15日: 全国高校生マイプロジェクトアワード西日本①大会に7人参加
2月11日: HYOGO×WKC フォーラム高校生SDGs探究発表会2021に13人参加
(発表会に4人, 動画発表に9人)
- 3月19日: 探究甲子園に3人参加
- (3) 地域人材を育成する地域としての活動指標 (アウトプット)
- ① 地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして
- 学校への地域住民の派遣回数 (年間) (目標設定の考え方: 地域との協働の取組の進捗状況を測る)
- 3年目目標値－20回 3年目実績－8回
- オープン・ハイスクール (2回), オープンスクール, 第6回ゆめいくプロジェクト発表会, コンソーシアムIKUNO協議会 (2回), IKUNOモデル運営指導委員

会（2回）

② その他本構想における取組の具体的指標

「IKUNOモデル推進委員会」の実施回数（年間）（目標設定の考え方：地域・企業との連携の進捗状況を測る）

3年目目標値－12回 3年目実績－8回

回数は目標値には届かなかったが、管理職、教員代表、事務室代表が一体となって進捗状況の確認や方針決定を行ったため、本事業の取組そのものを全教職員の共通理解へと繋がり、円滑に実施することができた。

（4）評価と課題

地域に残りたい生徒の割合、地域の課題に取り組み、地域の役に立ちたいと考えている生徒の割合は2年目から3年目にかけて増加している。「IKUNOプライド」の醸成については、目標を達成したと考えられる。主体性と協働性は全体的に充実感をもつ生徒の割合が高い。しかしながら探究性に関しては、環境や活動については充実感を持つ生徒の割合が比較的高いが、自己認識については高くない。課題に対して主体的・協働的に活動を行うことができているが、課題に対して深掘りして突き詰めるところまで行えていない状況がある。課題としては、地元への定着力や探究活動に対する生徒の満足度向上のための取組があげられる。自らが行った活動に対して自己評価し、自信をもって発信できるように、開発したカリキュラムにさらなる磨きをかけていく必要がある。

<添付資料>目標設定シート

12 次年度以降の課題及び改善点

- （1） 探究活動は本校教員だけではなく、コンソーシアムをはじめとした各種関係団体の協力によって成り立っている。何より地域協働学習実施支援員が地域と学校をコーディネートし、地域の人材を紹介してくれるなど、活動しやすい環境づくりに貢献している。本校においては、もともと朝来市の地域おこし協力隊員を朝来市から派遣していただいている。このような人材を今後も、配置してもらうための仕組みの構築が必要である。
- （2） 第2回コンソーシアムIKUNO協議会で、本事業終了後も組織を存続していくことが確認された。学校と地域の協働の重要性についてコンソーシアム団体に理解が得られたと考えられる。現在は生野高校のコンソーシアム組織として地域の団体に参加していただいているが、将来的には地域のコンソーシアム組織へと発展させ、その中に生野高校が参加する形で組織を構築していきたい。
- （3） 「生徒がテーマを設定するときはどうアプローチするか。」「高校生に対してどのレベルを求めてよいのかわからずコメントに苦勞する。求める水準を教えて欲しい。」「ともに学校づくりをするというより、依頼があることは協力するといった受動的な関わりを感じる。それぞれができることの見解を出し合う対話の場がもっと前段であってもよかった。」という意見をいただいております。探究活動が動き出す前に研修会を行うことで、コンソーシアムと学校の意思疎通を早い段階で設定し、改善していく。
- （4） 本事業で行ってきた探究活動の授業プリントをワークシート集としてまとめ、次年度以降の活動において活用していく予定である。しかしながら生徒は日々変化し、関わり方・導き方も変化していく必要がある。既存のワークシートを使用するだけでなく、生徒に合わせて工夫したところを盛り込むことや、全く新しいアイデアで作成するなどして、ワークシート集を毎年見直すことで、バージョンアップさせ、より洗練されたものにしていく。
- （5） 発表会で、但馬地域の他校との交流を増やし、探究活動で得た学びを共有することで、自

己実現のために必要な資質・能力を更に伸長させたい。近隣の高校が探究活動などの取組を発表し交流する機会を，単独の高校ではなく地域の高校が協働して創りあげる構図を目指す。

【担当者】

担当課	兵庫県教育委員会事務局 高校教育課	T E L	078-341-3817
氏 名	堂阪 博文	F A X	078-362-4288
職 名	指導主事	e-mail	Hirofumi_Dousaka@pref.hyogo.lg.jp